

公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

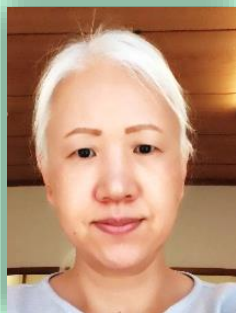
2026年5月号

公益社団法人信和会 理事長 小林 充



奨学生の皆さん、お元気ですか。戦争がなかなかやみませんね。人間が生活していくうえで誰かを支えたり誰かに支えられたりという活動が大事な部分を占めているから、これを生き方や社会を考える上で中心にすえてはどうだ、という考え方を「ケアの倫理」というそうです。そんな風に考えたら戦争も起きにくくなるかも。何ができるか一緒に学び考えていきませんか。きっと無駄な体験など一つありません。全部肥やしに変えて成長してやりましょう。その経験が誰かを支え誰かに支えられるために。

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川 聡子



新年度が始まり約1ヶ月が経ちました。新入生の方々もそろそろ新しい環境に慣れてきた頃ではないでしょうか。この季節は、若葉も瑞々しく、様々な花が咲き、とても過ごしやすい良い季節と言えるでしょう。話は、変わりますが、2026年2月28日にアメリカがイランを攻撃し、新たな戦争がはじまりました。これにより、4月中旬の時点で約3500人のいのちが失われています。他にもロシアとウクライナ間の戦争、イスラエルのガザへの進行、その他にも小さな戦争の勃発は後を絶ちません。どんな理由があっても「いのち」が粗末に扱われて人々が犠牲になっていいはずがありません。私たちは、人の「いのち」を守り、患人に寄り添う看護師です。職業倫理の観点からも「いのちを粗末に扱う戦争」は、絶対に許すことは出来ません。看護学生のみみなさんにも、看護を学ぶ人として「戦争」や「平和」、世界や日本の現状について、自分事として考え、看護師としての礎を築いていただきたいと思います。

京都民医連あすかい病院 事務次長 三角 強



みなさんはどんな看護師になりたいですか？私たちは、患者さんに寄り添い、最後までその人らしさを手助けする仕事です。その一方で世界では戦争で人が人を傷つけています。日本では高市総理が4/21に殺傷能力のある武器の輸出を原則認めました。日本から輸出された武器で人が傷つくことを想像するだけでもつらくなります。もはや他人ごとではいられません。歴史や社会の勉強は苦手ですか？戦争と医療ってとっても関係が深いんですね。毎日の勉強もがんばりながら、ほんの少しでいいので世界や日本のことに目をむけてもらえたらうれしいです。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 物部 理奈



5月になりましたね。新しい環境に少しずつ慣れてきましたか？医療を取り巻く環境、地域に求められる役割は日々変化していて、病院もその中で役割を見つめなおしながら進んでいます。そんな中で学ぶ皆さんの経験は、とても大きな意味があります。実習や勉強の中で迷うこと、不安に思うこともあると思います。うまくいかない日があっても大丈夫。その積み重ねが力になり、これからの看護につながります。これから暑くなる季節、体調に気を付けて学校生活を楽しく送ってください。



法人・病院の取り組み紹介



ポジティブコンテスト

2025年度の締めくくりとなる3月31日、あすかい病院恒例の「Safety-2 ポジティブコンテスト」が開催されました！このコンテストは、1年間のポジティブな取り組みを共有し合い、みんなで元気に新年度を迎えようというイベントです。各職場から、①仕事・環境改善の取り組み、②業務の効率化、③コスト・労力削減、④サービス向上、⑤学習・教育制度の改善、⑥円滑なコミュニケーションの充実、⑦エラーやインシデントへの先行的対策事例の7項目についてエントリーを募ります。この日発表したのは、私たち看護部（師長室）の他に、リハビリテーション部、栄養課、臨床工学課、緩和ケア病棟。どこの部署からも日々の業務の中で多くの知恵と工夫がなされてきた報告がされ、お互いに学びあい刺激しあえる機会となりました！



優秀部門賞の賞状と景品
持ってパシャリ☆

私たち看護部は、「民医連看護の魅力発信！～看護学生委員の活躍～」というテーマで看護師確保を見据えた看護学生委員の活動・奮闘を報告しました！
看護師不足が深刻化する中で、職員の育成や職場環境の改善を組織的に進めるとともに、新卒確保と定着を目指すために様々な企画や取り組みを行っています！
そんな役割を担う看護学生委員会。その取り組みを少しご紹介します！

↓↓CHECK↓↓



発表の様子☆

看護学生委員会って？



あすかい病院には様々な委員会があります。その中の一つ、奨学生の皆さんと最も接点を持つ委員会活動をしているのが看護学生委員会です！看護学生委員とは、皆さんのような看護学生や看護師を志す中学生、高校生に民医連の医療・看護活動を語り、学生と共に学び育ちあう活動する委員集団です！皆さんが参加される「奨学生のつどい」はもちろん、中学生・高校生ナース体験などにも一緒に参加し、「看護師の実際」を伝えてくれる存在です。

なお、委員はかつて自身も奨学生であった若手職員で構成されています。



奨学生のつどい



高校生/中学生ナース体験



看護部 8名の新入職員が入職しました！



研修は通年通してありますが、入職したての4月は特に様々な基礎研修が集中します！
技術演習などを丁寧に受けながら一歩ずつ立派な看護師さんへ成長していています！

研修の様子



まちづくりセンター

民医連の事業所では、病院職員と地域住民が協力し、多角的な活動を通じて、誰もが住みやすいまちづくりを目指しています。**まちづくりセンター**は、その拠点となる部署です。

〔こんなことをしています〕

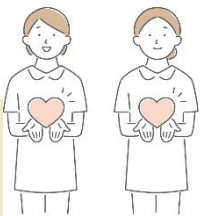
健康づくり：健康講座や青空健康チェックなど、年間を通じて地域の方々を対象に健康増進をはかっています。

まちづくり：地域の見守りや諸問題の解決に寄り添い、医療、介護をはじめとする相談を受け、生活全般をサポートします。

居場所づくり：食事会や認知症カフェ、子育て支援、サークル活動など、多世代が気軽に集い、交流できる拠点をつくります。

社会保障・平和：保険証の存続署名や医療・社会保障の充実を求める活動、平和を守るための取り組みを積極的に進めています。





あすかい病院 キラッと看護の紹介



地域包括ケア病棟 信頼を築くこまめな家族ケア

あすかい病院の前身である安井病院や、系列の診療所にも長く通院しておられた患者さん。施設入所しておられましたがコロナに感染し、容体が悪化したため息子さんが当院に入院できないかと打診されて入院に至りました。入院当初は病状が不安定で予断を許さない状況にありましたが、経口摂取が進むにつれて一時的に回復の兆しを見せておられました。しかし、個室へ移動してからは終末期を見据えたケアが必要となり、ご本人が最期まで自然に、そして穏やかに過ごせるよう、あらゆる選択肢を模索しました。

特に意識したのは、ご家族への積極的なアプローチです。面会の度にこまめに声掛けを行い、ご家族が抱える不安や「最期をどう迎えさせてあげたいか」という想いに耳を傾けました。またこの間の病状の変化をその都度共有しながら対話を重ねることで、ご家族も一つひとつの選択に対して納得し、心の準備を整えていくことができたと感じています。

お看取りの後、ご家族からは「これほど親身に寄り添っていただけたとは思っていませんでした。看護師さんを見る目が変わりました。この病院で最期を迎えられて本当によかったです」というお言葉をいただきました。

今後も、患者さんとそのご家族の想いをしっかり受け止めながら、患者さんのための看護を実践していける病棟であり続けたいです。

北3 地域包括ケア病棟の紹介



北3病棟は、50床の地域包括ケア病棟です。働くスタッフは幅広い年代で、アットホームな雰囲気の中、患者さんやご家族が望む生活を見据え、個別に合わせたケアを行っています。

医師、看護介護職、リハビリ、薬剤師、相談員、栄養士、事務といった多職種専門性を活かし、チームで患者さんを支えるよう努めています。退院後も安心して生活が続けられるよう、カンファレンスを重ね、各事業所と連携しスムーズな退院調整を目指しています。レスパイト入院も受け入れ、患者さんだけでなく、介護される方の生活も支えています。



皆でリハビリ体操！



近所の桜スポットでお花見🌸

